

ISSN 1882-7039

日 本 森 林 学 会

北 海 道 支 部 論 文 集

第57号

2009年2月

日 本 森 林 学 会 北 海 道 支 部
札 幌

日林北支論

日本森林学会北海道支部規則

- 第1条 当支部は、日本森林学会北海道支部と称し、事務所を北海道大学農学部森林科学科内におく。
- 第2条 当支部は、林学の向上並びに北海道林業の発展を図ることを目的とし、下記事業を行なう。
- 1 講演会、研究会、見学視察旅行等の開催
 - 1 林学、林業に関する調査研究
 - 1 その他の必要な事項
- 第3条 支部会員は、本会の趣旨に賛同し、所定の会費を納めたものとする。
- 第4条 当支部で功績のあったものを名誉会員とすることができる。名誉会員は、評議員会で推せんし、総会で決定する。
- 第5条 支部の経費は、会費、本部からの補助金、寄附金、その他の収入で支弁する。
支部会費は1カ年3,500円とする。ただし、学生は2,000円とする。
なお、支部の趣旨に賛同し、年4,000円の機関会費を納めた機関または団体を機関会員とすることができる。ただし、北海道森林管理局及び北海道の機関会費は、それぞれの下部機関を含め年100,000円とする。また、支部の趣旨に賛同し、年1口(5,000円)以上の賛助会費を納めたものを賛助会員とすることができる。
- 第6条 会計年度は、毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。
- 第7条 支部は年1回の総会を開く。但し必要な場合は随時開く事ができる。
- 第8条 支部総会で下記の事を議する。
- 1 会務報告
 - 1 その他重要な事項
- 第9条 支部には下記の役員をおく。
- 支部長 1名 評議員 20名程度
監事 2名 幹事 若干名
- 評議員は、会員の互選によるもの15名と、支部長の任命によるもの若干名とからなる。評議員選出規定は別に定める。
- 支部長は、会員の互選による評議員より選出する。支部長事故あるときは評議員の中から支部長代理を選出し、この職務を代行する。
- 監事は、評議員会において選出する。
- 幹事は、支部長が選任する。
- 役員の任職は2カ年とする。但し、支部長は重任をしない。役員に欠員が生じた場合は支部長がこれを補充し、その任期は前任者の任期の残りの期間とする。
- 第10条 本規則に規定していない事項は本部会則による。
- 附則
- 1 本規則は、昭和40年10月1日より実施する。
 - 2 本規則は、昭和41年10月1日より実施する。
 - 3 本規則は、昭和45年4月1日より実施する。
 - 4 本規則は、昭和45年10月1日より実施する。
 - 5 本規則は、昭和49年10月1日より実施する。
 - 6 本規則は、昭和52年10月1日より実施する。
 - 7 本規則は、昭和55年10月1日より実施する。
 - 8 本規則は、昭和56年10月1日より実施する。
 - 9 本規則は、昭和62年10月1日より実施する。
 - 10 本規則は、平成4年10月1日より実施する。
 - 11 本規則は、平成8年10月1日より実施する。
 - 12 本規則は、平成9年10月1日より実施する。
 - 13 本規則は、平成13年10月1日より実施する。
 - 14 本規則は、平成17年1月1日より実施する。

※評議員選出規定

- 第1条 選挙ならびに被選挙有資格者は、役員改選の年の6月末日現在における支部会員、名誉会員ならびに個人の賛助会員とする。
- 第2条 選挙区は全道一区とし、3名以内連記の無記名投票とする。投票は郵送によることができる。
- 第3条 開票の結果、得票数の多いものから定数までを当選者とする。ただし得票数が等しい場合は抽選によって順位を決める。
- 第4条 選挙に関する事務は幹事会がこれにあたりるとともに、幹事会は、開票結果を支部長に報告する。

ま え が き

2008年11月10日に札幌コンベンション・センターにおいて、日本森林技術協会北海道支部連合会との共催により、第57回日本森林学会北海道支部大会が開催されました。大会の開催・運営と論文集の刊行にご尽力された会員の皆様と編集委員各位に深く感謝の意を表します。日本森林学会会長ならびに日本森林技術協会理事長・同協会北海道事務所理事におかれましては、ご多忙中にもかかわらず来賓ならびに共催者としてご臨席・ご祝辞をいただきまして、心から御礼を申し上げます。

日本木材学会北海道支部との合同開催は今年で3年目を迎え、両支部の活動によって進められた北海道林業再生研究会の成果報告シンポジウムが開催されました。「北海道の人工林資源の持続的管理と有効利用をめざして－林業再生研究会からの報告－」のテーマを掲げ、以下の3課題について話題提供がなされました。熊谷 操氏（北海道庁）からは「人工林資源の状況と将来予測について」と題して、北海道林業の現況と課題の報告がありました。次いで、立原泰直氏（北海道庁）と八坂通泰氏（北海道立林業試験場）は「北海道版カラマツ人工林収穫予測ソフトを利用した収益性の検討」について、コンピュータ・シミュレーションの成果を紹介し、その有効性を高めるためにソフトを公開して改良を行っていることを報告されました。最後に、加藤幸浩氏（北海道立林産試験場）によって「道内の新築木造住宅で使用される構造部材の定量把握と径級別丸太所要量の推定」について、北海道大学木材工学研究室との共同研究の成果の報告がなされました。なお、座長は林業再生研究会会長の高橋邦秀氏が担当され、研究会の詳細は雑誌「山林」2008年11月号に掲載されています。北海道の林業・林産業の川上から川下の連携について、最新の成果がまとめられ、森林学会と木材学会の会員一同が熱心に聞き入っていました。

会員による研究発表件数は、口頭発表48件、ポスター発表17件で、ポスター発表は木材学会と同じ会場で実施されました。これまでの経験を生かし、お互いに議論が出来るように工夫がなされ、盛会でした。また、懇親会も森林学会と木材学会の合同で開催され、意見交換がなされました。事務局の記録では、199名の皆様の参加をいただき、盛会のうちに終了することができましたが、口頭発表の件数が減少していることも次年度の課題となりました。

また昨年度は支部のホームページが充実されました。今後も日本森林学会北海道支部のさらなる発展のために、会員諸氏のご協力をお願い申し上げます。

2009年2月

日本森林学会北海道支部
支部長 小池孝良

第 57 号 編 集 委 員 会

編集委員長	小池 孝良	(北 大 院 農)
編集委員	秋林 幸男	(北 大 F S C)
	石橋 聡	(森 林 総 研 北 海 道)
	神沼 公三郎	(北 大 F S C)
	倉本 恵生	(森 林 総 研 北 海 道)
	幸田 圭一	(北 大 院 農)
	斎藤 秀之	(北 大 院 農)
	佐藤 弘和	(道 立 林 試)
	渋谷 正人	(北 大 院 農)
	高橋 正義	(森 林 総 研 北 海 道)
	飛田 博順	(森 林 総 研 北 海 道)
	鳥田 宏行	(道 立 林 試)
	春木 雅寛	(北 大 院 環 境)
	宮本 敏澄	(北 大 院 農)
	森本 淳子	(北 大 院 農)
	八坂 通泰	(道 立 林 試)
	山田 健四	(道 立 林 試)
事 務 局	秋林 幸男	(北 大 F S C)
	渋谷 正人	(北 大 院 農)